



～あふれ出る湧き水と瑠璃色の水辺の町～

# 針江・霜降



はりっしも  
Harisshimo vol.20 2025 (令和7年). 2

湧人小  
きとさ  
水と自  
然な  
町に  
川をつ  
なが  
く  
ある

## Message

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会

針江・霜降地域は国の「日本遺産」・「重要文化的景観」の選定を受けています。



春の針江浜、芽吹くヨシ群落

## 大川の水質、大丈夫？

■本号では、令和6年度新たにスタートした「カバタ湧水量調査」及び「河川水草等植生調査」、定期的な「河川水質調査」報告をご紹介します。



●ナガエミクリ（長柄栗栗）特に湧水河川多く、環境省レッドリスト「準絶滅危惧」。



●バイカモ（梅花藻）は清流のシンボル。



●水草調査は裏面にてご紹介 ▶▶▶

## 河川水質調査



## 水の純粋さの指標となる「電気伝導度」

■今回は、「電気伝導度」と「琵琶湖の水位」「湧水量」との関係性を少し詳しくご紹介します。

グラフに表れているように、2023年晩秋から2024年早春まで、冬季に電気伝導度が高くなっています。この時期は、琵琶湖異常湧水時期、カバタの湧水量激少時期と合致していることがわかりました。また、大川下流に行くほど変化が顕著で、上流はごくわずかでした。

大川下流の電気伝導度は、通常  $80 \mu\text{S}/\text{cm}$ \* ですが、この時期、 $100 \mu\text{S}/\text{cm}$  を超えています。通常河川水や地下水は  $30 \sim 200 \mu\text{S}/\text{cm}$ 、水道水が  $100 \mu\text{S}/\text{cm}$  ですから、極端に悪い数値ではありませんが、雨水も含めた全体の水量や湧水量が減ると、河川の水質が悪化することが顕著に見て取れます。

見た目では分からない小さな変化もデータを重ねる事で、それが異常か通常の季節的な変化か読み取る事が可能になるので、今後も調査を継続して行きます。

(河川調査班 班長 青木博)

## カバタ湧水量調査

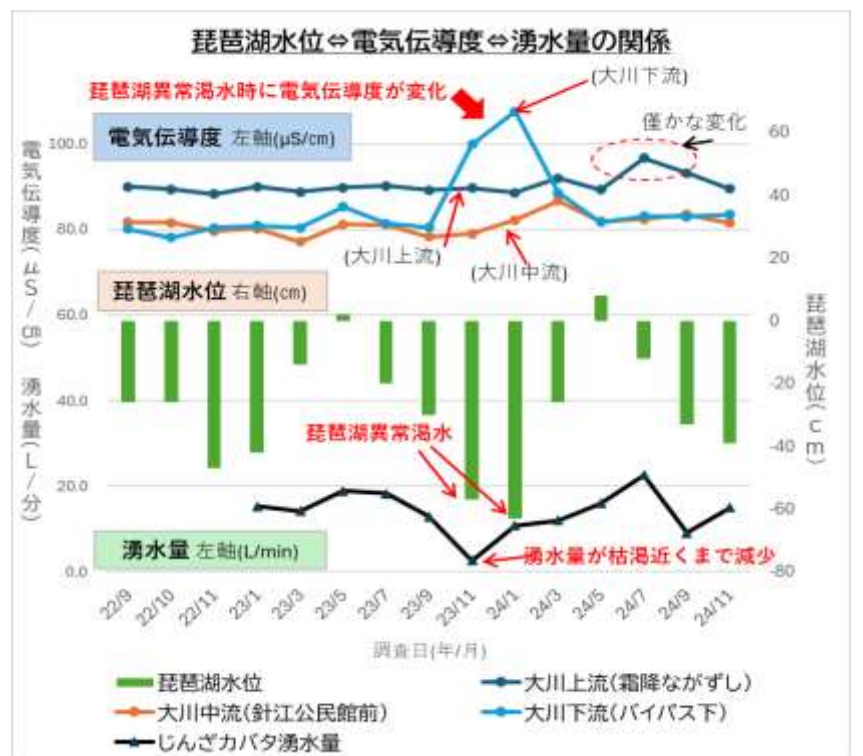
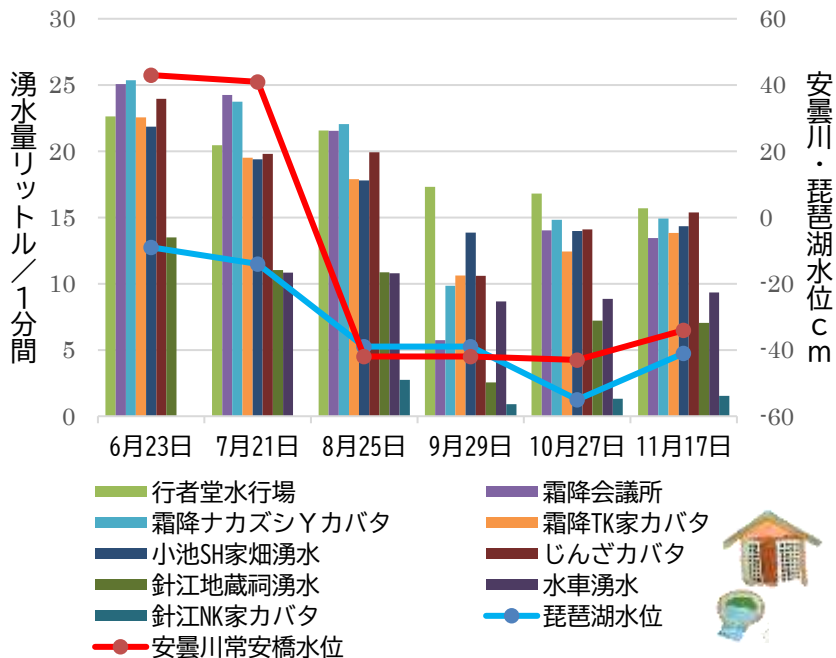
■昨年6月より毎月1回、針江・霜降両地区のカバタの湧水量の調査を行っています。

グラフでも分かるように、総じて安曇川の水位、琵琶湖の水位に比例して湧水量の増減が見られます。顕著なのは、安曇川の流が常安橋付近で湧水状態になると、霜降カバタやナカズシY家のカバタのように吐水が止まってしまうカバタもありました。それでも安曇川の水量が減っても出続けている行者堂カバタや小池川沿いの湧水もあり、水脈と井戸の深さの関係も調べる必要があるようです。

壺池に直湧きのカバタなどは計測が難しく、半年間6回分の調査データでは、まだ何ともいえないので引き続き調査をして行きたいと思えます。

(カバタ調査班 班長 北野俊朗)

## カバタ湧水量と琵琶湖水位・安曇川水位の関係



\*電気伝導度：単位は  $\mu\text{S}/\text{cm}$  (マイクロジーメンスパーセンチメートル) 純水： $0 \mu\text{S}/\text{cm}$ 、雨水： $5 \sim 50 \mu\text{S}/\text{cm}$

・河川水質調査項目：①気温 ②水温 ③水深 ④透視度 ⑤電気伝導度 ⑥pH (酸性・アルカリ性) ⑦COD (化学的酸素要求度) 等